

## 1 自己評価

### (1) 評価結果

別紙「令和2年度 新見高等学校（北校地）具体的計画」参照

別紙「令和2年度 新見高等学校（南校地）具体的計画」参照

### (2) 分析・改善方策

別紙「令和2年度 新見高等学校（北校地）具体的計画」参照

別紙「令和2年度 新見高等学校（南校地）具体的計画」参照

## 2 学校関係者評価委員名

斎藤 健司（新見公立大学教授）

田中 康信（新見商工会議所副会頭）

牧野 順子（思誠小学校愛児会副会長）

下田 泰久（新見高校北校地PTA会長）

桂 孝志（新見高校南校地PTA会長）

## 3 学校関係者評価

昨年度末に今年度の学校経営計画を示した。それをもとに各分掌で今年度の重点項目と具体的な取組を提案し、校地ごとに「令和2年度具体的計画」としてまとめた。各項目の自己評価の結果をまとめた資料をもとに、自己評価の適切さ、改善方法の適切さ、総合評価について評価を求めた。

### (1) 「自己評価のプロセス」について

各分掌の重点項目と具体的な取組について総合評価を実施した。校地ごとに職員会議等で各分掌の自己評価等を参考にしながら、各項目の達成状況を総合的に評価した。分掌ごとの自己評価にとどまらず総合的に評価することで具体的計画の達成状況が把握しやすくなり、今後取り組むべき課題が捉えやすくなった。

### (2) 「自己評価の適切さ」について

両校地とも妥当であるという評価であった。学校の取り組みに理解を示していただいた。

### (3) 「改善方策の適切さ」について

両校地とも妥当であるという評価であった。中学校へも出前授業に行ってほしい、マスコミをもっと活用した広報をしてはどうか、との意見をいただいた。

### (4) 「総合評価」について

両校地とも妥当であるという評価であった。学校の取り組みに理解を示していただいた。

#### 4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

主幹教諭を中心に、総合評価と学校関係者評価委員会が出された助言や校内からの提言をもとに、令和2年度の学校経営計画を見直し、次の方向性で策定していく。

##### ■検討に際する全般的なこと

- (1) 「本校のミッション」は再編整備に向けたグランドデザインとの整合性をとる。
- (2) 「内外の環境分析」が現状に即しているか検証する。
- (3) 「ミッションの追求を通じて実現しようとする本校のビジョン」が「本校のミッション」と現状に即しているか検証する。
- (4) 「当該年度の具体的な学校経営目標・計画」は本年度の学校自己評価を踏まえ、注力すべき点を明確にする。
- (5) こうして策定された学校経営計画をもとに校地ごとにより具体的な目標・計画を立てる。

##### ■「当該年度の具体的な学校経営目標・計画」＝令和2年度のを項目別に検討

- 「1 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力等を育む効果的な教科指導の工夫」
  - ◆学校自己評価アンケートの肯定的評価は高い水準にある。再編整備を踏まえた新学習指導要領への移行も大きく前進した。
- 「2 主体的に社会に貢献しようとする使命感と実力を兼ね備えた生徒の育成」
  - ◆地域との連携活動は本校の教育活動の要である。「おかやま創生 高校パワーアップ事業」終了後も継続すべきである。
- 「3 学校と家庭、学校と地域、校地間、学科間の連携・協働をふまえた効率的な教育活動の推進」
  - ◆新型コロナウイルス感染症の影響で様々な制約を受けた。令和3年度は醸成を鑑みながら連携の機会を増やしていく。
- 「4 本校教育活動とその魅力を内外に伝える広報の展開」
  - ◆今年度は地域連携広報室を新設し、中学校に対してアンケートを実施するなど、広報活動を充実させられた。

##### ■新たな4項目として

表現を修正し、再編整備に向け、優先順位を変更した。

また各項目において、より具体的な目標を明示した。

##### <改善案>

- 1 校地間、学科間、学校と地域や家庭の連携・協働をふまえた効率的な教育活動の推進  
特に校地間・学科間の「融合」に向けた取組の推進
- 2 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力等を育む効果的な教科指導の工夫  
特に1人1台端末の有効な活用方法の研究
- 3 主体的に社会に貢献しようとする使命感と実力を兼ね備えた生徒の育成  
特に昨年度中止となった地域連携活動の復活と中学校との連携を継続発展
- 4 本校教育活動とその魅力を内外に伝える広報の展開  
特に「新見高校広報全体計画」の具現化